

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 新道寺 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っていた。「言語の特徴や使い方に関する事項」については全国平均と同程度であるが、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える問題等「読むこと」の領域に課題がある。
	よくできた問題	・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題
	努力が必要な問題	・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える問題 ・表現の効果考える問題 ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して分や文章を整える問題
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っている問題もあるが、全体的に全国平均を下回っていた。領域では「数と計算」の正答率が高く、「図形」に課題がある。
	よくできた問題	・百分率で表された割合を分数で表すことができる問題 ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題
	努力が必要な問題	・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題 ・図形を構成する要素要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する問題
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っている問題もあるが、全体的に全国平均を下回っていた。評価の観点で「思考・判断・表現」に正答率が高く、「知識・技能」に課題がある。
	よくできた問題	・観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題
	努力が必要な問題	・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ問題

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」で、30分以上読書をする割合は全国平均を上回っている。反面、全く読まない児童の割合も全国平均を上回っている。</li> <li>・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」で、「参加している」割合が全国平均より下回っていた。地域のコミュニティスクール会議等を通して、今後も地域と連携した教育を継続し、シビックプライドの高揚を図っていきたい。</li> <li>・「自分にはよいところがあると思いますか」で、「当てはまる」と肯定的な回答が全国平均を上回っていた。昨年度に比べかなり高くなっており、本校での取組の成果が表れている。引き続き、自尊感情を高めていく取組を続けていきたい。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の叙述を基に目的に合った内容を読み取る力を付けるために               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な文章に触れさせるために、朝の学習等の時間を活用して練習問題を継続的に取り組む。</li> </ul> </li> <li>○ 自尊感情を高めるために               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援を要する児童に対して担任と担任外の教員とで情報共有し、学習支援等を通して、児童に達成感や成就感を味わわせることを継続して行う。</li> </ul> </li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書習慣を付けていくために               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校、学年だより等を通じて読書週間の実態や読書をする意義等を伝え、家庭でのテレビ視聴やゲームをする時間も含め家庭生活の見直しを呼びかける。</li> <li>・ 学校においては、担任の読み聞かせや活動が早く終わった時間での読書、図書委員会の読書週間の取組等を通して、本に興味をもたせ読書に親しむ時間を確保し、家庭での読書習慣につなげる。</li> </ul> </li> </ul>
---